

秋の彼岸によせて

平成十五年九月 大乘寺 住職 岡 光俊

「心安穩に」

戦争や疫病、思想の制約や人種差別、貧困による餓死もないこの恵まれた国にあって、昨今、鬱病が増大しています。今ここにきて、人々の心が不安定であることが、表面化している現象と受け止めることができるのではないのでしょうか。では、何故これほどまでに不安定な心の持ち主が増え続けてきたのでしょうか。

人間は、信じるものがあって初めて心は安定します。自分、家族、友達、先生、上司、部下、仕事、お金、会社、色々なものを信じて人は人生を乗り越えて行くのでしょうか。しかし社会が不景気になり、会社、上司、仕事、が信じられなくなると、鬱病患者も多くなるようです。

これは本来、家族家庭の果たすべき役目が機能していないからではないのでしょうか。具体的には、前回の「春の彼岸によせて」に、申させて頂きましたが、家庭でしか伝えられない順を親が伝えていないからではないのでしょうか。ご先祖さまや神佛の尊さを伝え、人は神佛、ご先祖さまにお仕えるものだと思えることができているのでしょうか？ 社会人という前に、人として最低身につけなければならぬ心と、その心を保ちつつ成長させて頂く習慣を身につけていくのでしょうか。

家族、家庭のありかたが大きく変わった為、信じる事柄や深さが変わり、弱々しい、変化の多い表面的なことしか、信じられなくなつた結果ではないのでしょうか。そして、今皆が信じているものは、知識ではないのでしょうか。テレビの解説やクイズ番組、豆知識、インターネットでの情報。知りたいことは、なんでも知ることができ、皆さんの知識袋は入りきらないほど満杯になっていることだと思えます。故にご自身の一生を決める大切な時期、事柄であっても、情報が多過ぎて処理もできず、頑固な思い込みも手伝って動きも取れ

ず、情報で満足してしまっている為、渴望かつぼうすることもないのです。

また、人は、欲と無知と誤解により、神や佛の存在すら、信じられないものにしてしまったのです。それは、信仰の領域まで欲を持ち込んだ人間の愚かさからでしょう。人は神を何でも希望を叶えてくれる欲の執行役と位置づけ人間の召使いとして認識してしまっているのです。なにをどのように信じれば良いかということすら、見失ってしまったのです。

そこで、人々は制約も義務も発生しない人間関係、一時いつときの気まぐれや、お金だけの出会いを求め、彷徨さまよい、寂しさを紛らわしているのです。その社会現象がメルトモや出会い系サイトとして現れてきているのでしょうか。人々の心の故郷であるべき家庭は、今や生活の一中継点としてしか機能していません。ではないでしょうか。

初めに申しました自分、家族、友達、先生、上司、部下、仕事、お金、会社、そのほかこの世に存在するあらゆるものは、時代や社会、状況、健康によって瞬間になくなるものです。もしもこれらだけを信じているかたがおられるとすれば、この方々は鬱病うつびょう予備群であることは間違いないでしょう。

順むかを弁わえた家族のありかたの中に、人々は経文に出会い、ご先祖さまや神佛の存在を知ることとなるでしょう。人としての正しさは家庭で教えられ、正しさの中にしか、真の安らぎはあり得ません。仕事やお金という前に、この世に命を下さったご先祖さまがおられることを外してなにが大切といえましょう。

もし人が神や佛を信じることができるようになれたなら、これ程素晴らしいことではないと思います。何故なぜなら神さまや佛さまは永遠不滅の存在だからです。

経文を読ませて頂きますと、徳の大切さに気づかせて頂きます。欲が取れた分だけ、より多くの事柄を管理させて頂けます。また徳は、自分で積めるものでもないこと、ご先祖さまの方々が積んで頂

いたものがなければ、この短い人生で、無知で愚かな私たちが積める筈もなければ積める機会すら頂けなかったこと、また何世代もかかって少しづつ積み重ねてこられたであろうことも、ここにきて痛感させて頂けます。

ですからこそ、そのご先祖さまの遺徳に感謝させて頂き、己も徳を積む方法を身につけさせて頂くために読経が本当に大事であることを解らせて頂きます。

### 秋の彼岸、

ご先祖さまの成佛を一心に願ひ、楽しく素直に経文を読み続けることができる人は、知らず識らずのあいだに真の心の安穩へと導かれるでしょう。秋の空気は清々しく澄み、月も星もはつきり輝いて見えます。人の心もこうありたいものだと思わずにはおれません。

合掌